

科目名	行政法総論	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			法律学科	□必修 ■選択	
			国際観光学科	□必修 □選択	
英文表記	General part of administrative law	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年		
ふりがな	さとう ひろとし	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中		
担当者名	佐藤 寛稔	実務家教員 担当科目		修得単位	4単位
授業のテーマ	行政作用法・行政組織法の基本的な枠組みを理解し、主要な行政判例を読み込みます。				
到達目標	行政法の基本的な用語や理論の枠組みを整理して、代表的な行政判例を理解できる。				
授業概要	行政法学において極めて重要な概念である「法律による行政」という視点から行政法を考察します。また主要な行政判例を研究することによって、具体的な行政実務についても学びます。				
授業計画					
第1回	行政法とは何か、行政とは何か	第17回	行政立法と「法律による行政の原理」 行政立法の種類		
第2回	行政の外部関係 行政の内部関係	第18回	法規命令の法的性質 行政規則の法的性質		
第3回	法律による行政の原理	第19回	行政契約・行政計画		
第4回	法律による行政の原理の「例外」と「限界」	第20回	行政指導		
第5回	裁量行為	第21回	行政上の強制執行		
第6回	行政の事前手続とその役割	第22回	行政代執行法		
第7回	わが国行政法と行政法の事前手続	第23回	間接強制・即時強制・行政調査		
第8回	情報公開制度	第24回	行政機関と行政機関の間の法関係 行政主体と行政主体の間の法関係		
第9回	個人情報保護制度	第25回	国家行政組織法		
第10回	「行政行為」の観念	第26回	内閣法―内閣総理大臣と国務大臣		
第11回	行政行為の分類	第27回	内閣法―内閣補助部局		
第12回	行政行為の諸効力	第28回	公務員法―戦前の公務員と戦後の公務員		
第13回	行政行為の取消しと撤回	第29回	公務員の任用		
第14回	行政行為の瑕疵	第30回	独立行政法人 まとめ		
第15回	まとめ	第31回	期末試験		
第16回	中間テスト				
授業時間外の学習	1. 授業前には教科書の該当箇所に必ず2回、目を通してください。(1.5時間程度) 2. 講義の復習をしっかりと行ってください。特に判例はしっかりと読んでください。(1.5時間程度) 3. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。(0.5時間程度)				
履修条件 受講のルール	「人権」「統治機構」「民法総則」の単位を全て取っていることが望ましいです。行政法の教科書はこれらの科目の基礎知識は当然持っていることを前提に書かれています。したがって、これらの科目の学習経験がないと全く理解できないこともありえます。				

テキスト	藤田宙靖『行政法入門（第7版）』（有斐閣）
参考文献・資料	適宜プリントを配布します。
成績評価の方法	期末試験 70% 中間試験 30% 中間試験を欠席した場合の追試験は実施しません。
オフィスアワー	毎週火曜日 10:40～12:10 および金曜日 13:00～14:30
成績評価の基準	秀（100～90点）、優（89点～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下） *出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	行政法は他の法律科目と比べて学びにくい科目かもしれませんが、しかし、公法独特の思考形式を身につけられる科目としては行政法の学習がもっとも有効だと思います。将来、公務員になりたいと考えている人は是非履修してください。